

# 徳島の建築士にできること

有限会社内野設計

内野 輝明

十二月二十日(水)に一・二年生徒全員・教職員約六百人を対象として、徳島城南塾SSH(スーパーサイエンスハイスクール)特別講演会を実施しました。講師として、1981年に本校を卒業され、地元で活躍されている内野建設の内野輝明先生をお招きし、「徳島の建築士にできること」と題したご講演をいただきました。初めに高校生のときは硬式テニス部に所属しており、二年生からはバンドに熱中したこと、卒業後は大学に進学し大阪で就職、その後奥さんと一緒に一年間世界旅行(視察)をしたこと、鹿児島で六年間の修行の後、徳島で事務所を開き二十年になることをお聞きました。

お話の中心は、2011年の東日本大震災から、建築士として今日まで考えてきたこと、実践してきたことです。「公害」と言っても何も解決しなかったのが「環境」「エコ」で建設的に取り組める社会になってい

ます。「防災」に対してもこの「環境」「エコ」に当たるものがないかと考えてこられたそうです。

まず、阿南市にバス会社の寮を建てる際に「仮設住宅試行」の設計を実施されました。従来の仮設住宅は「飯場型」と呼ばれる一つの建物を間仕切り壁でしきつたものでした。先生は、住む方のことを考え、X型に仮設住宅を配置した風社配置の設計をされました。また、仮設住宅を組み合わせ直して復興住宅に変える設計についても説明を受けました。

次に、美波町で実施された「先行高地移転試行」のお話を聞きました。津波到達水位よりも上で形成される新しい住宅のことで、美波町で標高25〜35mに新たなまちができる計画です。SDGsの「気象変動に具体的な対策を」で、日本で選ばれた3つの建物のうちの一つが、そこで建設された体験宿泊施設だそうです。

続いて、木材備蓄の仕組みづくりのお話がありました。部材統一・木材備蓄により、発災した場合もすぐに対応でき、美波町の発災時においては、必要構造物の約1/4の確保が玉厨子農村公園で可能だそうです。



また、県産材、木材備蓄、解体・再利用、気候風土への適用といった「木造仮設住宅徳島モデル」の説明がありました。

最後に「PF」(フェイズフリー)という言葉を紹介していただきました。キャッチフレーズは「いつもともしもを、もつとフリーに。」で、普段からもしものことを

考えることでみんなが助かる社会をつくれ  
ないかということです。「防災」という言  
葉では何も進まなかったけれど「PF」と  
いう言葉で考えていくというんなものが解  
決していくとの考えをお示しいただきまし  
た。

徳島県の安心・安全について考えさせら  
れるお話であり、生徒も感じることが多  
かったようです。お忙しい中ご講演いただ  
きました内野先生に、この場を借りてお礼  
を申し上げます。  
(文責/寺内伸好)

## 城南塾く生徒感想文く

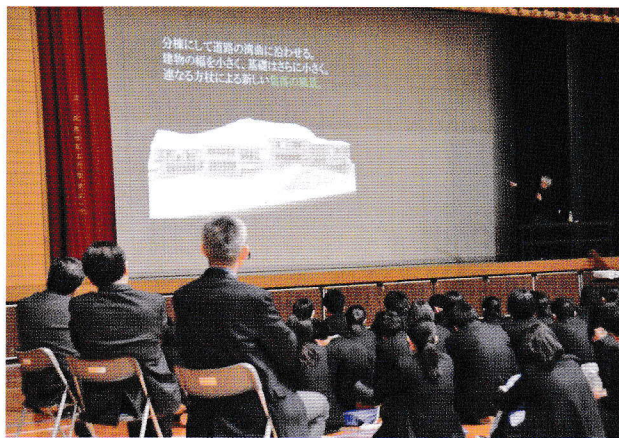
一〇四HR 川西 創

今回の講演では、建築関係の話から防災  
関係の話につながって、一人一人が未来の  
ためにすべきことを知ることができまし  
た。僕が特に興味を持ったのが「フェイズ  
フリー」という考え方です。簡単に言えば  
「もしも」を「いつも」に変えるという発  
想でしたが、気になったので自分で調べ  
ることにしました。フェイズフリーというの  
は平常時と災害時という社会のフェイズを

取り払い、普段利用している商品やサービ  
スが災害時に適切に使えるようにする価値  
を表した言葉であるということを知り、ま  
た、身の回りにはフェイズフリーにするこ  
とができるものがたくさんあることを知り  
ました。例えば僕が使っているカバンも、  
もつと容積が大きく軽くて丈夫なものにす  
れば、浸水時に浮き輪代わりになります。  
教育や習い事も、いつもの学びに非常時の  
シーンが描かれれば、災害を感覚的に知る  
ことができます。このように、日常にある

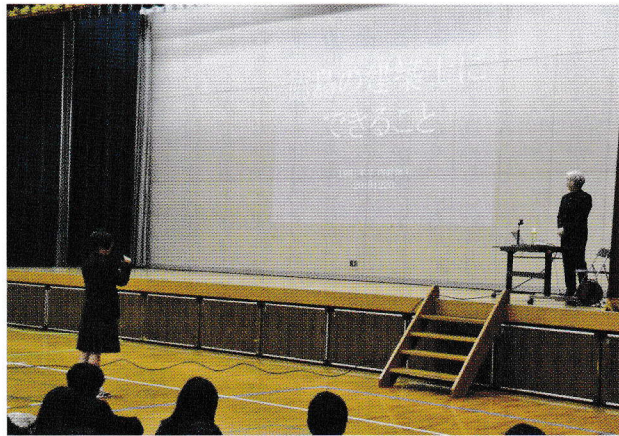
様々なものも、少しアイデアを加えれば、  
災害時にも役に立つ便利なアイテムへと変  
えることができますと言うことを知って、自  
分の考えがガラッと変わったような気がし  
ます。何事も自分のアイデア次第でプラス  
の方向へと変えることができると思います。  
そして講演の中で「反省型」から「未来型」  
へという言葉がありました。いつも反省  
するのではなく、いち早く未来のことにつ  
いて対策を進めるという考え方は、勉強に  
も当てはまることだと思います。この考え  
方を日々の生活に取り入れて、よりよい生  
活を送ることができるようにしていきたい  
です。また、これらの新しい考え方もつ

と広めることができるように、僕も色々  
人へ話していこうと思います。講演を聴く  
前は、建築の話なんて興味ないと思ってい  
ましたが、実際は建築に限らず、日常生活  
においても非常に役立つ話ばかりで感謝し  
ています。



建築の面から防災について考えるというのが新鮮で面白かったです。今までの私の仮設住宅のイメージは、プライベートがなくて住みづらい造りになっているものだと思います。思っていたけど、風車型に住宅を配置したり、家族用の大きい家にみんなの憩いの場となるような中庭空間がある住宅が設計されていてステキだなと思いました。また、震災によって家を失った方々に一刻も早く住居を提供できるように、木材の組み立て方を工夫して、時間がかからないように、かつある程度の強度を確保できるように造りになっていてスゴイなと感じました。

今日、講演を行ってくださったような建築士の方々がいてくださるおかげで、仮設住宅案がどんどん考えられているんだなと感謝の気持ちでいっぱいになりました。三十年以内に発生すると言われる南海トラフ地震の被災者となる私たちに、東日本大震災の時の仮設住宅よりもより過しやすい住宅の建設が可能になるかもしれないとおっしゃっていたのを聞いて、建築士さんでスゴいなと改めて感じました。AI



による技術の発展がどんどん進んでいく現在の社会の中で、今回教えていただいたような居住者となる人の立場に立ってほしいやりのある住宅設計は、やはり人間にしかできないんだなと感じました。

今回の講演を聞いて、被災者となった時、私にできることは何かとよく考えさせられました。

した。私も去年防災士の資格を取るための勉強をする中で、自然災害の恐ろしさと事前の備えが大切だと言うことを学びましたが、災害が起こった後、被災者となった時に自分にできることは何かを考えるよい機会になりました。被災した方々と共に生きるために思いやりの気持ちを大切にしていきたいです。

